

第5学年 道徳学習指導略案

- 1 主題名 大地に生きる 内容項目4－(7)「郷土愛」
資料名 「新田を開拓した大島清兵衛と村を支えた人々」 自作資料

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間にとって「ふるさと」は、母のように温かく包んでくれる場であり、どんな時も心の居場所となるところである。それには、子ども時代にいかに郷土に触れたかが大切である。地域の人々と交流をもち、地域の自然の中でたっぷり遊んだり、学習したりすることにより愛着心がわいてくる。そして郷土の伝統に触れ、考えることで郷土をより愛する子どもが育つと考えられる。

本主題は内容項目4－(7)「郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心を持つ」ことをねらいとしている。この内容項目の「郷土愛」は、低学年では地域での学習や生活が多いため郷土に対する愛着心の育成を図ることをねらいとしている。中学年では地域の伝統や文化を学習することからそれらを大切にし、郷土を愛する心の育成を図ることをねらいとしている。高学年のねらいの郷土や国を愛する心を育むことは、子どもたちが客観的に日本を見つめ、「杉戸町っていいなあ。日本は、すてきな国だなあ。」と感じられる子を育てることである。子ども達は社会科や総合的な学習の時間に日本の各地の様子や世界の国々の様子などを学習するため、客観的に郷土や日本という国が見つめられるようになってきている。

そこで、本学年では、苦労や努力を重ねながら郷土を作り上げてきた人々の生き方に視点をあて、郷土を愛する心を育てたい。そして、杉戸に生まれてよかった。杉戸町が大好きと言える子を育てたい。

(2) 児童の実態 <省略>

(3) 資料について

本資料は杉戸町の北側に位置する大島新田を開拓した大島清兵衛についての自作資料である。子どもは4年生で学習したため、沼がどのようにして田になっていったかについてはある程度、知識として習得している。しかし、主人公、大島清兵衛氏についてどのような人で、当時どのように苦労したかについて深く考えたことはない。今まで、知識として知っていた大島新田の開拓ではあるが、ここでは、その開拓をするために中心となった当時の大島清兵衛や村人達がどのような思いで開拓をしたのか、という先人の郷土への思いを感じとることにより、ねらいとする道徳的価値に迫るようにしたい。

本資料は、今から250年前の江戸時代の話である。当時、幕府は財政を豊かにしようと新田開発を奨励していた。この近隣の幸手市、白岡町などの新田もこの時代に開拓されたが、ここ杉戸の安戸沼だけは、開拓困難な沼として取り残されてきた。過去に数回開拓をしようとしたが失敗に終わっている。そこで、江戸柳橋の町人である大島清兵衛氏が、幕府の許可をもらい開拓することとなった。彼は非常に誠実、実直な人であり、だれからも信頼される徳のある人物であつたらしい。そして、土木技術や設計技術に長けているため、新田開発にはうってつけの人物であつたらしい。この村の人々

もどうかこの荒れた沼地を新田にしたいという思いがあったので、清兵衛氏と協力して開拓していったのである。清兵衛氏も町人であったから、初めは商売として開拓をしようとしたのであろうが、予想以上に荒廃した土地だけに村人と共に手を携えて仕事をするうちに、村人達のためになんとかしたいという思いが強くなったようである。村人達も精魂込めて開拓に力を注ぎ、郷土のために力を尽くした大島清兵衛氏を慕い、尊敬していたようである。だから、この村の入植者全員で、新田の開発者である大島清兵衛の業績を後世までも受け継ぎ、その徳を長く顕彰するために「清兵衛八日」を設け、彼を偲ぼうと決めたのである。この「清兵衛八日」は、清兵衛氏の墓参りをしたり、堀の「藻刈り」を行ったり、昼食会を行ったりするなど、実際には村の親睦を深める会にもなったようである。しかし、250年たった今でも「清兵衛八日」が行われているという事実から考えると、大島清兵衛氏や当時開拓を行ってくれた人々への感謝の気持ちを忘れないように行っているのではないだろうか。現在、私たちが豊かに暮らせるのも、当時、汗水流しながらあの悪水と戦った先人達のお陰である。何気なく暮らしているが、この杉戸を築いてくれた先人達の努力や苦勞に感謝し、自分達も杉戸の住人としてこれからもさらに「わたしたちのふるさと、杉戸町」を発展させていこうとする心情を養いたい。

3 第5学年 道徳学習計画 <省略>

4 研究主題との関連

人は人と関わらずには生きていけない。今の自分が幸せに暮らせるのは先人が築いてくれたこの杉戸があるからである。つまり、この故郷を作ってくれた先人がいたから今の生活がある。だから、郷土を愛し、先人に感謝することは、人として当たり前のことである。

このように考えると、現在この地で生活している子ども達もいずれは先人となるわけであるから、今まで自分達が受け継いできた伝統や文化などを継承していく責任がある。その責務を果たすには本研究主題である「自分の生き方を見つめ、共に生きる」姿勢が必要となってくる。

このように本時のねらいを達成させながら、研究主題に迫りたい。

【心に響く学習指導法の工夫】

<導入>

「清兵衛八日」が今でも受け継がれている事実から、今でも新田の人々は大島清兵衛氏や当時開拓してくれた村人達に感謝をしていることが分かる。導入で、「清兵衛八日」のビデオを視聴することにより、村中で墓参りをしていることを事実として受け入れ、『「清兵衛八日」が今でも続けられているのはなぜだろう』という課題意識をもたせたい。

<展開>

展開では、4つの柱を中心に話し合う。

- ①開拓許可書を手にして、やる気に満ちている清兵衛の気持ち
- ②収穫寸前で田が水浸しになっているのを目前にした清兵衛の気持ち
- ③「どんなことでも言いつけてください。わたしらはこの土地しかないのです。～」と言った平九郎の気持ちとその言葉を聞いたときの清兵衛の気持ち
- ④新田ができあがり、村人達と喜び合う清兵衛や村人たちの気持ち

主人公清兵衛の常に村のために開拓したいという気持ちを中心に話し合い、②と③では村人達も清兵衛と同じ気持ちで取り組んでいることを押さえたい。話し合いの形態は、一斉、小集団での話し合いなどを取り入れていきたい。

また、現在、大島新田で農業を営んでいる地域の方に村人の気持ちを語ってもらい、少しでも当時の苦労や努力が分かるような工夫をしたい。

<終末>

現在、実際に大島新田で暮らしている農家の方をお呼びし、新田内の年中行事や清兵衛八日の様子について話してもらうことにより、今も250年前の意志が受けつがれている事実を実感させると同時に、これからは自分達が郷土を発展させようとする心情を養いたい。

5 教育に関する3つの達成目標「規律ある態度」との関連

郷土に愛着をもったり、郷土を愛し、発展させようとしたりする「郷土愛」は、人と関わり合いながら、自然と湧き出てくる感情のようなものである。人は、窮地に立たされた時、ホッと心が解放された時など安心できる場所、故郷を思い出すことが多いのではないだろうか。よく「心のふるさ」というが、人それぞれが持っている温かい居場所、自分を包んでくれる居場所が故郷であるような気がする。

その郷土愛のベースとなるものが「規律ある態度」であると思う。礼儀正しく接することや約束を守ることは郷土を発展させる上では礎となる部分である。しっかりとした規律ある態度を育成することにより信頼関係を構築し、未来のある豊かな郷土が生まれ、それを受け継いでいけるものと思う。

6 事前指導

- ・総合的な学習の時間に「大地とのふれあい」で、地域の米作りの様子として「大島新田を開拓した苦労」（のろあげ、掘りあげ田など）、また、当時使われたしゃくしなどの農具をビデオで視聴したり、大島新田で農業を営んでいる地域の方の話を聞いたりする。
- ・郷土についての意識調査、大島新田についての知識などを事前に調査しておく。
- ・「杉戸のいいところ見つけ」に取り組むことにより、日々の生活の中でも郷土のよさに目を向けるようにする。
- ・読書の時間に「気づく・とらえる」で行う、範読や話し合いの柱立ては行っておく。（下欄）

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価(評価方法)	資料 時間
導 入 づ く	1 「清兵衛八日」のビデオを観て感想を話す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰かの墓参りだ。 ・ なぜこんなに大勢の人が墓参りに行くのだろう。 ・ 有名な人が亡くなったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に本資料の主人公である大島清兵衛の墓参りをしている様子をビデオで見せることにより、実話であることを実感させ、資料にスムーズに入れるようにする。 ・ 清兵衛についての説明をする。 	ビデオ 3分

展 開	と ら え る	2資料「新田を開拓した大島清兵衛」の範読を聞く。	登場人物 大島清兵衛（主人公） 篠崎平九郎 村の衆 スタートの条件・状況 今から250年前杉戸には安戸沼（倉松沼）という水はけの悪い沼があった。その沼を江戸の町人、大島清兵衛に開拓許可がおりた。	・本時のねらいに迫るために考えの根拠となる条件や状況をおさえておく。 ・主人公の気持ちの変化に着目しながら聞かせる。 ・心に残ったところに線を引きながら聞かせる。 ・児童の発表を中心に話題の整理と確認をする。	12分 場面絵
		3心に残ったことや話し合いたいことを発表する。		☆話し合いの概要を理解し、話し合いの方向性がつかめたか。 （発表・つぶやき）	

7 本時の学習

(1) ねらい

○先人の努力や苦勞を知り、その業績に感謝するとともに郷土を愛する心情を養う。

(2) 展開

	学 習 活 動	予想される 児童の反応	指導上の留意点 ☆評価（評価方法）	資料 時間	
展 開	と ら え る	1話し合いの柱を確認し、資料の範読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの話し合いの柱 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物、条件、状況を確認する。 ・事前に柱立てしておいた話題を確認することにより、柱を意識して聞くようにさせる。 	15分 場面絵
	深 め る	2主人公清兵衛の心の変化を中心に話し合う。 ①にぎりこぶしに力が入った清兵衛の心の内を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の腕を試したい。 ・待ちに待ったチャンスだ。 ・村人と力を合わせれば必ずできる。 ・誰もが救えなかった村を救いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安戸沼開拓のチャンスを待っていた清兵衛のところに幕府の許可がおりた喜びをつかませる。 ・清兵衛は有能な町人であるため、自分の腕を試したいという気持ちがあったことを押さえる。 ・村を救いたいという気持ちがあったことを押さえる。 	20分
開	②海原のような新田を前にぼう然と立ちつくす	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前が真っ暗だ。 ・私がもっとよい方法を 	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の出来事に途方にくれる気持 		

清兵衛の気持ちを考える。

とっていけばこんなことにならなかったが。

- ・何とかよい策を考えねば。
- ・村の衆に申し訳ない。
- ・難しい、策が見つからない。

ちや村の衆に申し訳ないという思い、また、必ず成功させねばという使命感ある清兵衛の心の葛藤をとらえさせる。

③「どんなことでも～
わしらはこの土地しかないのです。」と言った平九郎の気持ちとそれを聞いた清兵衛の気持ちを考える。

<清兵衛の気持ち>

- ・村人は自分を必要としているんだ。
- ・村が救えるなら何でもやりたい。
- ・村人と共に頑張りたい。

<平九郎の気持ち>

- ・どうかこの沼を田にしてほしい
- ・清兵衛さんの力になって自分たちに出来ることは何でもしたい
- ・自分たちはこの土地を離れるわけにはいかないんだ
- ・この土地をどうにかよい土地にしたいんだ

- ・村の衆も清兵衛と同じ気持ちで開拓に取り組んでいることを押さえる。
- ・村人は清兵衛を信頼し、自分たちの夢を叶えてほしいという思いがあることを押さえる。
- ・平九郎の思いを現在大島新田に住んでいる地域の方に語ってもらう。

④田ができあがり喜び合う清兵衛や村人たちの気持ちについて考える。

<清兵衛の気持ち>

- ・やっとできた。
- ・村の衆にも随分励まされたなあ。
- ・こんなに喜んでくれて嬉しい。
- ・村のためにできあがってよかった。

<村人の気持ち>

- ・これで、生活が楽になる
- ・子ども達もここで暮らせる
- ・清兵衛さんのおかげだ
- ・夢が叶った

補 250年たった今でもなぜ清兵衛の墓参りは続いているのだろう。

- ・清兵衛達の努力や苦労に感謝するため。
- ・当時の苦労を忘れないため。
- ・みんなで新田を大切にしようという気持ちから。

- ・25年もかかってやっとできあがり、苦労してきたことが喜びに変わったことに共感させたい。
- ・長い年月の間に清兵衛と村の衆の気持が一体化したことを押さえる。
- ・村のために労を惜しむことなく働いてきた清兵衛が充実感や達成感に浸っていることを押さえたい。
- ・地域の方に、現在どんな思いで

				墓参りをしているのかを話してもらおう。 ☆ 開拓途中で挫折してしまいそうな時もあったが、村人とともに励ましあいながら新田を開拓した清兵衛の気持ちに共感できたか。 (発表・つぶやき・表情)	
見 つ め る	3 今日 の学 習を して 考 え た こ と を 発 表 し 合 う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の人は苦勞をして今の杉戸町を作り上げてくれたんだ。 ・ 清兵衛さん達がいたから今の杉戸があるんだ。 ・ 感謝したいな。 ・ 杉戸町をこれからも大事に発展させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清兵衛の生き方や清兵衛の開拓に対する熱い思いに触れて話し合いが進むようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 今までの話し合いをもとに杉戸町に一層愛着をもち、町の文化や伝統を継承させ発展させていこうとする気持ちがもてたか。 (発表) 	5分	
終 末 あ た た め る	4 ふるさと「杉戸」の映像を観る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 町の行事、名所、子ども達が気に入っている場所などを映像で写し出し、「すてきな杉戸町」を感じとらせるとともに、これからも大事にしていこうという気持ちを高める。 	5分 プロジェクター BGM	

8 評価

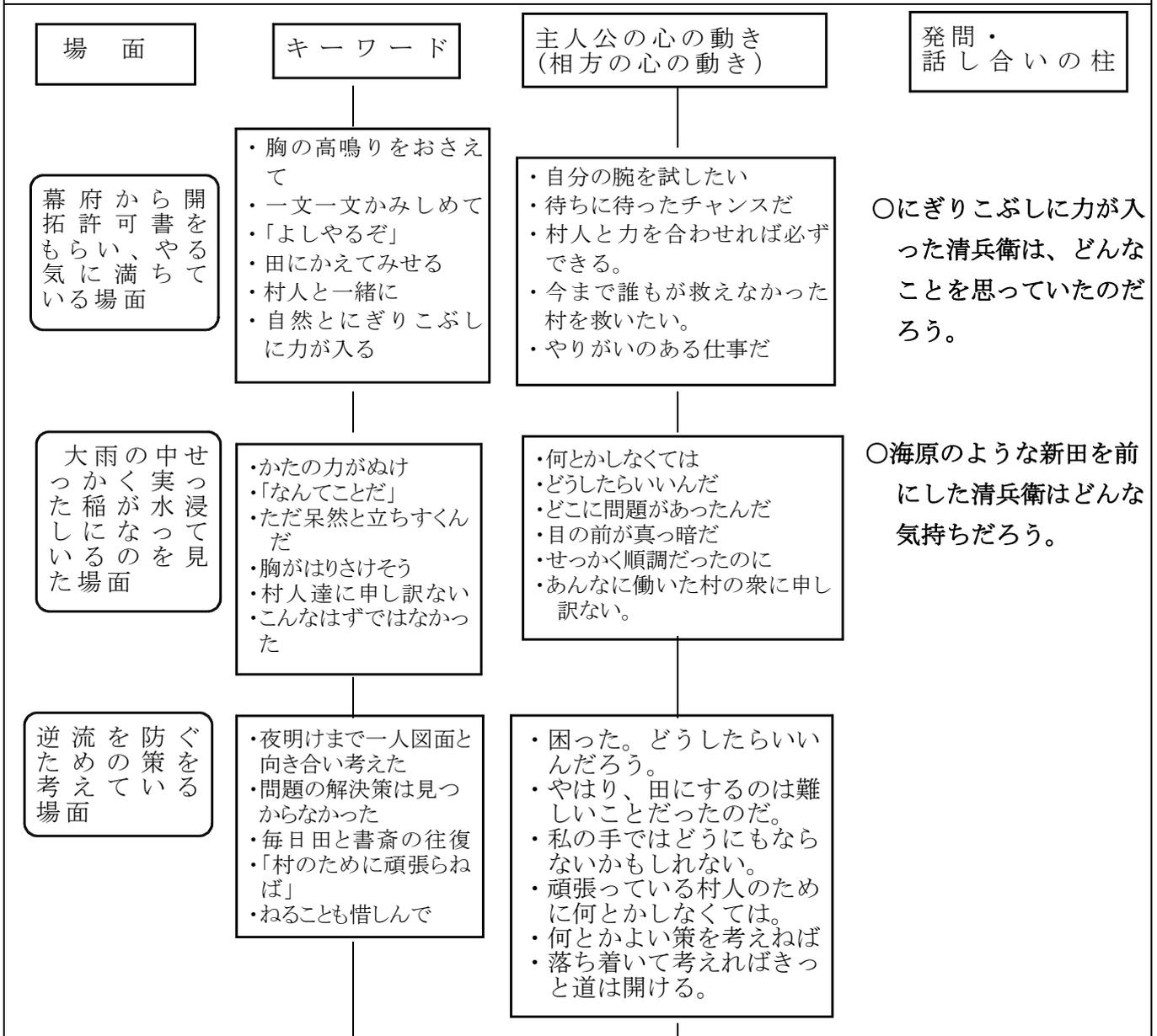
- ・ 精魂惜しまず新田開発のために働いた大島清兵衛と村人の献身的な努力に感謝し、これからも郷土をよりよくしていこうとする気持ちが高まったか。

(つぶやき・表情・ワークシート)

9 事後指導

- ・ 心のノート p101 「わたしのふるさとしょうかい」に杉戸の紹介文を書く。
- ・ 学級通信で道徳の授業の様子や感想文を紹介する。

資料分析表		
<ねらい> ○先人の努力や苦勞を知り、その業績に感謝すると共に郷土を愛する心情を養う。		
<主題名> 大地に生きる	スタ ター トの 条件 ・ 情況	今から250年前、杉戸町に安戸沼(倉松沼)という大變水はけの悪い沼があった。村人達はここを新田開拓したいと思っていたが、開拓が困難な土地で誰もが手をつけられない状態であった。その沼の開拓許可を得たのが大島清兵衛だった。清兵衛は、真面目で実直な男であり、土木技術にも長けていた。
<資料名> 新田を開拓した大島清兵衛と村を支えた人々		
<主人公> 大島清兵衛 <登場人物> ・篠崎平九郎 ・村の衆		



・「どんなことでも言いつけてください」
・「この土地しかないのです」
・「どんなことをしてでも開拓したい」
・新田を開拓する意気込みを見せた

・こんなに村人が私の力を信じてくれているんだ。この仕事は私がやらねばいけない。
・村の衆と力を合わせればきっとできるぞ。
・村のために絶対完成させなくては。

○「どんなことでも言いつけてください。私たちはこの土地しかないのです。」という平九郎の言葉を聞いた清兵衛はどんな気持ちになったのだろう。

解決策が見つかり、また、村の衆とともに新田を開拓する場面

・来る日も来る日も朝から晩まで
・水のようなどろをすくう
・腰と腕がガクガクに
・一人として弱音をはかない
・村がひとつにまとまるのを感じた
・13年間休まず働いた

・ここで頑張らなくては。何とか田にしたい。
・村人たちがあんなに頑張ってくれているのだから。

田が出来上がって村人と喜び合う場面

・わしらの夢が叶う
・ありがとうございます
・わしらの生活が楽になる。
・みなさんと一緒に開拓できたことに感謝している。

・やっとできた
・長い年月がかかったものだ。
・村のためにできて嬉しい
・村人達と力を合わせて頑張ったかいがあった。
・これで村も豊かになる
・村人が喜んでくれてうれしい。
・村人の苦労が報われて本当によかった。

○田ができあがり村人達と喜ぶ清兵衛はどんな気持ちだろう。

現代の大島新田の場面

・今でも墓参りをしている

・清兵衛さんや当時の村の人たちの苦労に感謝しているんだ。
・今でも清兵衛さんを忘れてはいけないと思っている
・これからもみんなで力を合わせてこの新田を守っていこう

補 250年たった今でも墓参りが続けられているのは、大島新田に住む人たちにどんな気持ちがあるからだろう。

新田を開拓した大島清兵衛と
村を支えた人々

安戸沼

- ・120ヘクタール(校庭120分)
- ・水深一、八メートル

田にするのが
むずかしい沼

多くの人が開拓の願いを出している

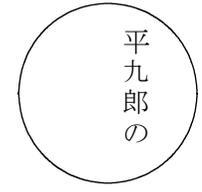
顔



清兵衛の
顔

大島 清兵衛

- ・土木技術や設計
技術にすぐれる
- ・誠実 (まじめ)



平九郎の
顔

若者頭 篠崎平九郎

村人たち

幕府から開拓の許可がおりた

にぎりこぶしに力
が入る清兵衛



場面絵

- ・自分のうでをためせる
- ・待ちに待ったチャンスだ
- ・あの土地を救いた
- ・村人と力を合わせれば
きつとできる

- ・村の衆にもうしわけない
- ・目の前が真つ暗だ
- ・私のせいでこうなってしまう
- ・た
- ・なんとかしなければ
- ・村人にあやまらなければ



場面絵

海原のような田を見つめ
る清兵衛

清兵衛ととも
に必死にな
る人々の場
面絵

- ・村人はわたし
を必要としてい
る
- ・村が救えるなら
なんでもしたい
- ・村のために何とか
しなくてはいい
けない

清兵衛



場面絵

清兵衛と策を練る平九郎
や村人

- ・清兵衛さん
なんとかして
ください
- ・何でもお手伝い
します
- ・村を救ってほしい
- ・このままでは
困ってしまう

村人

25年かかってで
きあがった新田



場面絵

- ・(清兵衛)
- ・やっとなんか
村の衆にはげま
されたな
- ・うれしな喜んで
うれしい
- ・(村人)
- ・やっとなんか
子どもたちも
清兵衛さんのおかげだ
ありがたい
- ・やっとなんか
子どもたちも
清兵衛さんのおかげだ
ありがたい

清兵衛八日の絵

- ・清兵衛さん
に感謝したん
に感謝したん
- ・いなかで力も
こいなかで力も
こいなかで力も
- ・清兵衛さん
に感謝したん
に感謝したん
- ・いなかで力も
こいなかで力も
こいなかで力も